

J A 自己改革推進レポートについて

令和 7 年 3 月 2 4 日
J A 鳥取県中央会

1. J A 自己改革実践状況

(1) J A グループ鳥取の取り組み

①「チアフル鳥取」へ県産農畜産物を贈呈

J A グループ鳥取は1月17日、鳥取県 J A 会館で、バドミントンの S / J リーグ 1 部へ昇格を決めた実業団チーム「チアフル鳥取」に県産農畜産物を贈呈した。県産農畜産物の提供を通じて選手の食をサポートするとともに、食と農の応援団として魅力発信の後押しを期待する。

J A 鳥取県中央会の栗原隆政会長や J A 全農とつとりの尾崎博章県本部長、鳥取県畜産推進機構の河田強専務らが同チームの山本明良監督や石田有彩キャプテンら 10 名それぞれに「星空舞」10^{キロ}、鳥取和牛10^{キロ}、大山ルビー600^{グラム}、地場産プラザ「わったいな」直営ジェラート店の白バラ牛乳を使用したジェラート6個セットを手渡した。

バドミントン選手の経験がある栗原会長は「瞬発力と持久力の両方が必要な競技で、提供した食材は体づくりに役立つと確信している。地元のためにもぜひトップリーグで活躍し、鳥取旋風を巻き起こしてほしい」と激励した。石田キャプテンは「県産農畜産物を食べて体づくりに活かしたい。地域を盛り上げられるようがんばりたい」と謝辞を述べた。



②女性参画推進に向け J A 女性理事が意見交換

J A 鳥取県中央会は2月14日、倉吉市のホテルセントパレス倉吉で、J A 女性理事を対象とした「女性役員研修会」を初めて開催した。県内 J A の女性理事7人が参加。講演やランチミーティングを通じ、困りごとや悩みを共有。女性理事の役割発揮や J A 運営参画への意思反映に向け意識を高めた。

講演では、日本協同組合連携機構 (J C A) の比嘉政浩専務が登壇。「女性の声を J A 運営に活かすには」と題し、女性参画、女性の意思反映の意義を説明し、理事としての役割



発揮を求めた。ランチミーティングでは、ざっくばらんに意見交換し、交流を深めた。参加者からは「理事会に出席しても発言しにくい」「女性理事の参画を高めるには、家庭の事情や理事選出しやすい環境を考慮する必要がある」などの意見があった。

中央会の栗原隆政会長は「JAの発展には女性の力が必要。女性理事の参画を高め女性の声をJA運営や地域に届けられるよう取り組みたい」と話した。今後も女性理事のリーダーシップが発揮できるようサポートするとともに、JA事業の好循環につなげていく。

(2) 大山乳業農業協同組合の取り組み

「バイオ炭を利用したCO₂削減プロジェクト」がJ-クレジット制度で認証

大山乳業農協が代表となり、三光株式会社と一般社団法人C2Xの3社共同で取り組みを進めている「バイオ炭を利用したCO₂削減プロジェクト」がJ-クレジット認証委員会で「バイオ炭の農地施用」方法論として認証された。

下水汚泥を処理する過程で発生するバイオ炭を家畜糞尿の水分調整剤として使用される「おが粉」の代替品として酪農家に提供する。これを堆肥化して採草地に散布した際に、バイオ炭に含まれる炭素が土壌に長期間溜まることで、CO₂を削減することが期待される。さらに、土壌改良効果として酸性土壌の中和や微生物の活動促進があり、飼料自給率の向上も目指している。

現在はプロジェクトに賛同していただいた牧場で試験的に行っており、J-クレジットの発行に向けてモニタリングと検証を進めている。



(3) 鳥取県畜産農業協同組合の取り組み

鳥取県生協の地域担当職員向け学習会を開催

鳥取県畜産農協は1月22日、同組合本所の食肉加工工場で、鳥取県生協職員に向けた産直牛産地学習会を開催した。

今回の学習会では、鳥取県畜産農協の自給飼料の生産や堆肥の還元から牛の肥育・食肉加工までの一貫体制による安全安心な鳥取県畜産牛肉の生産および牛トレーサビリティ法に基づく牛肉の種別等について改めて学習していただいた。また、鳥取県生協の2月の重点商品「産直小間切れ」と「ホルスもも切り落とし」の食べ比べを実施してそれぞれの商品の特徴を理解していただき、鳥取県産牛の更なる普及推進に取り組んだ。



(4) J A全農とつとりの取り組み

①台湾で王秋・あたご梨の販売促進と梨花芽穂木の輸出促進活動を実施

J A全農とつとりは1月10日、台湾台北市内の新光三越で、王秋・あたご梨の試食会やノベルティ配付を実施した。同会職員その他、県内生産者3名にも参加していただいた。試食した方のなかには、シャリ感と甘さを評価し、春節(旧正月)用に購入していく方もいた。王秋は今後も出荷量の拡大が見込まれており、台湾での販路についても拡大できるよう取り組んでいく。



1月11日には、梨花芽穂木の輸出促進のため、卓蘭鎮農会を訪問し、現地での取扱状況や品質確認、作業状況などの確認や意見交換を実施した。

今後も梨づくりの仲間として交流を深め、輸出促進に取り組んでいく。

②農業機械新機種研修会を開催

J A全農とつとりは1月24日、J A全農とつとり清谷倉庫で、県下J A農機担当者を対象とした農業機械新機種研修会を開催した。J A担当者の他、同会農機センター担当者40名が参加した。

研修会では、主要取引メーカーによる新機種の説明の他、実機の確認や、試乗する機会もあった。参加者は熱心に説明を聞き、2月下旬から3月上旬の各地区農機展示会で、新しい提案ができるよう理解を深めた。



(5) J A鳥取信連の取り組み

令和6年度県内J A農業融資の実績について

令和6年度の県内J Aにおける農業融資の新規実行実績は、390件、959百万円(前年比▲18件、▲363百万円)、実行額のうち、農業法人向け新規実行額については、240百万円(前年比▲186百万円)となった。

J A農業融資専任担当者を中心に農業者との関係構築・強化を図り、農業近代化資金等の利用推進を実施したものの、資材高、原料高を踏まえた投資控えや大口案件の捕捉ができなかったこと等が影響し、件数および実行額とも前年を下回る実績となった。

同会では、令和7年度においてもJ Aへの同行訪問支援や、担い手コンサル伴走支援を行うことにより農業者との関係構築を図っていくとともに、農業近代化資金保証料助成の継続実施や、J Aバンク利子補給制度の利用推進を実施し農業者の借入負担軽減を図ることで農業融資伸長に向け取り組んでいく。

(6) JA共済連鳥取の取り組み

農作業事故体験VRを活用した学習プログラムの展開

JA共済では、農作業においてさまざまな危険がひそんでいる点に注目し、当事者の視点から農作業事故を疑似体験できるVR映像コンテンツを開発している。VR動画で農作業事故を「自分ごと化」していただき、安全対策の重要性を伝えている。

県内においても、農作業事故の防止に向けて、農業者を対象にした農作業安全研修や各種イベントなどでVRを使った事故の疑似体験を組み合わせた啓発学習コンテンツを活用いただき、参加者からも好評である。JA共済連鳥取では、今後もVRによる学習コンテンツの活用を推進し、農業者の安心・安全を守るための活動に取り組んでいく。



以上